

新規・継続等	新規	分野	砂防施設整備		事業番号	8	事業名	砂防(火山砂防)				
市町村名	小谷村		ふりがな箇所名	つがけむち 梅池沢		つがけ	梅池		事業年度 (完了年度は見込み)	H23 年度 ~ H31 年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	砂防堰堤工 2基 1号堰堤 H=14.0m L=170.0m 2号堰堤 H= 9.5m L= 100.0m					H22年度事業進捗率		0.0 %			
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース		0.0 %			
	H23年度実施内容	測量・設計・調査 1式					用地補償費ベース		0.0 %			
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降		
	事業費計(千円)	830,000		0		0		20,000		830,000		
財源内訳	国庫支出金	456,500		0		0		7,700		456,500		
	その他											
	県債	327,850		0		0		11,530		327,850		
	一般財源	45,650		0		0		770		45,650		
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部	政策評価課		
								ランク	評点	ランク	評点	
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上		1~9戸		0戸		A	10	A	10
		保全対象公共施設	2箇所以上		1箇所		なし			6		6
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設有り		一般施設有り		なし			0		0
		保全対象に避難所,避難経路があるか	あり		なし					1		1
	小計								17		17	
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去20年に1回以上		災害履歴地		なし		A	5	A	5
		交通遮断による地域経済などへの影響	大		中		小			5		5
		防災計画上の位置づけ	あり		なし					5		5
		小計								15		
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C1.5以上		B/C1.0以上1.5未満		B/C1.0未満		A	15	A	15
		早期発現度	5年未満		5年以上10年未満		10年以上			3		3
		流域の総合調整(関連事業の有無を含む)	検討あり		検討なし					0		0
		小計								18		
	緊急性 (25)	地質・地形の状況	地質が脆弱かつ地すべり地形		地質が脆弱		その他		A	7	A	7
		植生の状況	無林地や倒木が多い		放置林		その他			4		4
		平均渓床勾配	10度以上		2度以上10度未満		2度未満			7		7
		土砂整備率	0%		0%より大50%未満		50%以上			5		5
	小計								23		23	
	計画 熱度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い		市町村要望有り		特に要望ない		B	6	B	6
		事業情報の共有	関係者以外にも周知		関係者中心に周知		特に周知していない			3		3
		住民参加の状況	住民が直接参加		住民市町村意見を反映		住民意見反映していない			4		4
		小計								13		
	費用対効果(B/C)		10.76		評価の合計				A	86	A	86
事業周 辺環 境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	上流域は地すべり危険区域「梅池」に位置していることから、豪雨による地すべりで突発的な土砂の供給が考えられ、土砂流出の危険性が高い。保全対象は小谷村の観光の中心である梅池 Gondola 山麓駅その他、多数の宿泊施設等が建ち並んでおり、土石流発生時には莫大な被害も予想されるため、有事に備えた土砂整備率確保の早期対策が必要である。										
	地域からの要望経緯	上流域で渓岸浸食が確認されるため、平成22年5月に役場を通じて梅池地区から対策の要望あり。										
	事業説明等の経緯	平成22年5月に役場及び梅池地区役員を通じて地区住民へ計画概要を説明した。										
	環境・景観への配慮項目	環境配慮制度対象箇所										
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。										
特記事項	特になし。											
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他			
部意見	当流域には、不安定な渓床堆積物と多くの倒木が存在しており、保全対象まで沢出口が迫っている為、次期降雨による、土砂と流木の流出と保全対象への被害が懸念される。保全対象には県道、避難所2戸及び村の主要な観光・宿泊施設が含まれており、速やかな土砂災害対策が必要である。					政策評価課 意見	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。					